

March 2009

大阪大学図書館報

vol. 42 no. 3 通巻 166号

発行所 大阪大学附属図書館 2009年3月31日発行

〒560-0043 豊中市待兼山町1の4

e-mail: kohowg@library.osaka-u.ac.jp



附属図書館の館名変更のお知らせ

平成21年4月1日から、次のとおり、これまでの分館という名称を改め、各館の主なコレクションの内容やサービス対象が分かりやすい館名になります。

本館 (Main Library)

→ 総合図書館 (Main Library)



生命科学分館 (Life Sciences Branch Library)

→ 生命科学図書館 (Life Sciences Library)



吹田分館 (Suita Branch Library)

→ 理工学図書館 (Science and Engineering Library)



箕面分館 (Minoh Branch Library)

→ 外国学図書館 (International Studies Library)



CONTENTS

- 附属図書館の館名変更のお知らせ …P. 1
- 【特集】総合図書館、理工学図書館リニューアル
 - 総合図書館、理工学図書館が変わります …P. 2
 - 新しい総合図書館を体感してください！ …P. 3
 - 理工学図書館はこう変わります！ …P. 6
- 「わたしのおすすめ本」リレー連載 その6 …P. 9
- 教員著作寄贈図書のご紹介 …P. 9
- LibQUAL+®による附属図書館アンケート調査の実施結果について …P. 10
- 「図書館は何をしているか？」に応えよう：アメリカ図書館訪問報告 …P. 15



総合図書館、理工学図書館リニューアル



1. 総合図書館、理工学図書館が変わります

総合図書館と理工学図書館は、平成20年度に開始した耐震改修工事により、耐震壁、耐震ブレース（耐震柱）を設置し、地震に強いより安全な図書館となりました。また、この耐震改修工事を契機とし、従来の図書館機能に加え新しい機能を満載してリニューアルオープンします。リニューアルオープンの時期は、総合図書館は6月、理工学図書館は、4月です。リニューアルの目玉は、なんといっても「ラーニング・commons」。情報機器を増設集中化し、グループで語らい議論する「話せる図書館」スペースです。また、閲覧机やグループ学習室の増設、「ほっと」空間の設置、防犯カメラの設置による安全性の向上など、いままでの図書館の機能に加え、図書館のイメージを大きく変えるリニューアルの内容を、以下総合図書館、理工学図書館それぞれに紹介します。

総合図書館リニューアルイメージ図



理工学図書館リニューアルイメージ図



2. 新しい総合図書館を体感してください！

総合図書館では昨年8月からB棟及び書庫棟の耐震改修工事が始まり、利用者の皆さまにはご不便をおかけしていましたが、本年**6月2日(火)**いよいよリニューアルオープンいたします。

B棟2階 – Learning Commons

A棟2階参考図書コーナーとフラットにつながっているB棟2階ラーニング・commonsは、図書資料と電子資料をシームレスに利用いただける新「学びの場」です。

会話も可能ですので、マナーを守って楽しくご利用ください。

ラーニング・commonsは、(1) コラボレーションゾーン、(2) 端末ゾーン、(3) フリーゾーン、(4) ラウンジゾーン、(5) ギャラリーゾーンに分かれています。

◎パソコンとグループ学習のコラボ

(1) コラボレーションゾーン、(2) 端末ゾーンでは、パソコンを利用したグループ学習が可能です。ご要望の多かったMacも設置、パソコン環境が充実しています。

◎ノート・パソコン館内貸出サービスを開始

◎可動式テーブルと椅子で自由にグループ学習

(3) フリーゾーンには、キャスター付きテーブルと椅子、小型ホワイトボードを用意していますので、貸出ノート・パソコンを利用したグループミーティングなどに利用できます。

◎充実した学習サポート

図書館職員とティーチング・アシスタント(TA)が皆さまの学びをサポートします。

◎大型ディスプレイ設置

窓際にはパナソニックから寄贈された103インチ大型ディスプレイを設置しています。阪大作成コンテンツや図書館オリジナルコンテンツを提供する予定です。

◎生協プリペイドカード対応のプリンターを設置

◎皆さまの安心・安全のため防犯カメラ設置

各階に防犯カメラを設置しています。この画像はB棟2階利用支援カウンター前のディスプレイで流していますので、空席確認にもご利用ください。



ラーニング・commons

新しい総合図書館を体感してください！

B棟3階

3階は、(1) CMC端末ゾーン、(2) マルチメディアネットワークゾーン、(3) フリーゾーン、(4) グループ学習室に分かれています。

◎充実したパソコン環境

B棟		デスクトップ			貸出ノート・パソコン	
		サイバーメディアセンター 情報教育システム(Windows系)	Mac	マルチ メディア ネットワーク ゾーン	Windows	Mac
2階	ラーニング・コモンズ	12台	6台	0	20台	4台
3階		38台	0	28台		
パソコン台数合計		50台	6台	28台	20台	4台

◎プレゼンテーション学習をサポート

グループ学習室は、パソコン、プロジェクターを利用したプレゼンテーション学習や少人数のゼミに利用できます。

◎携帯電話ブース設置

図書館内で携帯電話の通話が可能になります。

B棟4階 - サイレントゾーン

個人ブース10席を含めて閲覧席を130席用意。勉強に集中できる場所として設定していますので、このゾーンではパソコン使用禁止です。

書庫棟

入口はB棟2階ラーニング・コモンズ側です。書庫棟各層エレベータ前にOPAC検索用パソコンを設置しています。各層に皆さまの安心・安全のため防犯カメラを設置し、エレベータも新しくしました。

こんなところも新しくなりました！

◎カップ式飲料自動販売機（A棟）

A棟2階エントランス横のラウンジに設置します。販売機の横にはデポジット式紙カップ専用回収機を設置しますので、このラウンジから持ち出さないようご利用ください。

◎コイン式複写機（A棟）

A棟とB棟つなぎ部分にコイン式複写機を1台増設します。

◎車椅子用階段昇降装置（A棟～B棟）

A棟とB棟の3階・4階には段差があり、車椅子利用者には移動にご不便をおかけしていましたが、両階とも階段横に昇降装置を設置しています。

◎自動貸出返却装置（C棟）

C棟（東玄関側）に設置します。C棟で図書の貸出・返却が可能となります。

◎対面朗読室（C棟）

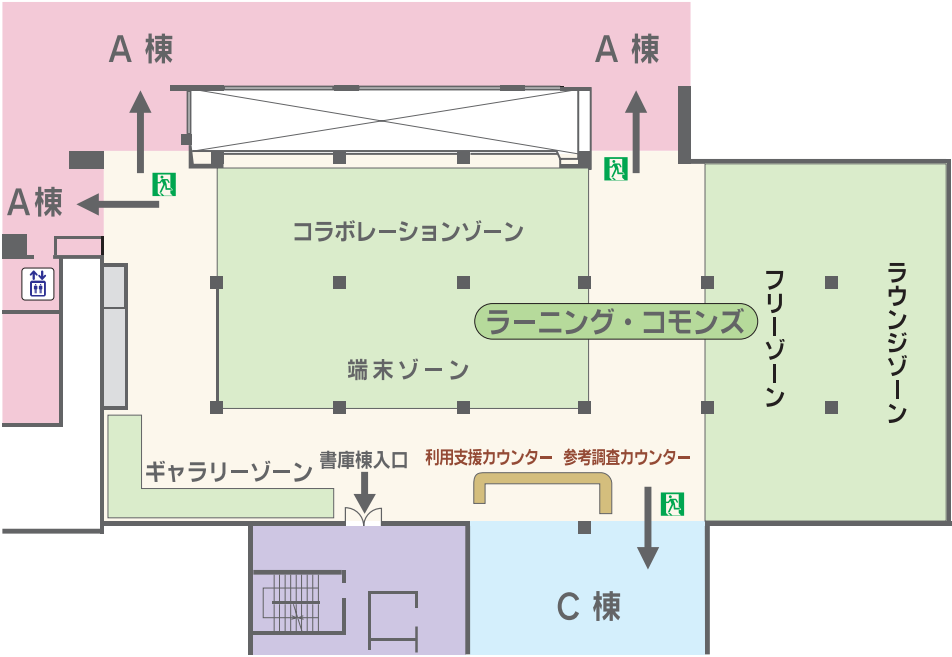
C棟（東玄関側）自動入退館システムを入れてすぐ横に設置しています。

◎ペットボトル飲料自動販売機（C棟）

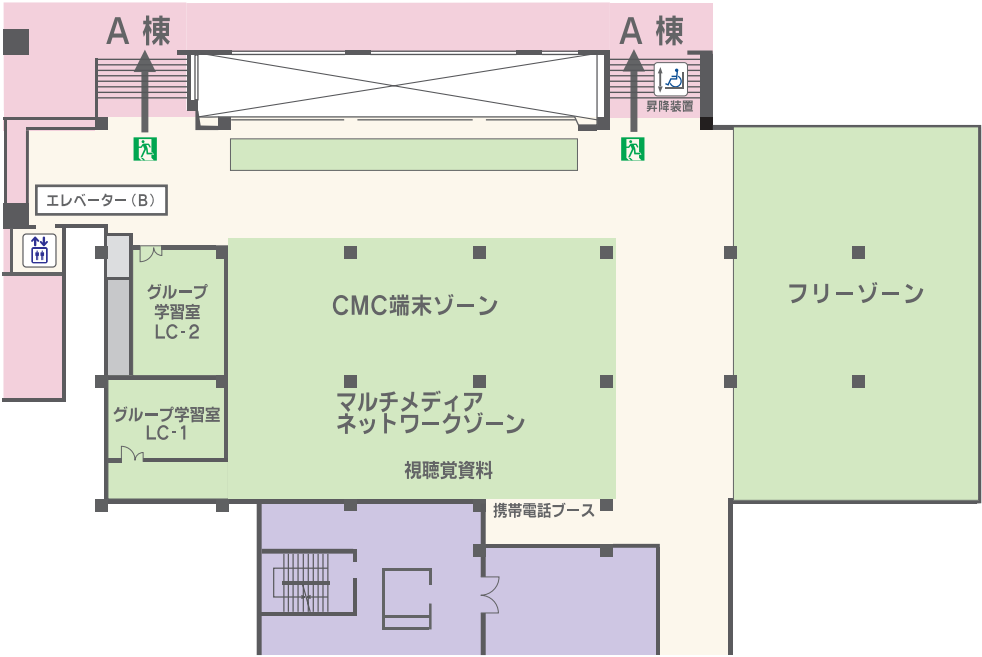
C棟（東玄関側）自動入退館システムを入れてすぐ横に設置します。自動販売機の横にはデポジット機を設置しますので、館内で購入されたペットボトルはこの回収機に戻してください。

上記以外にも、皆さまに快適に利用していただけるよう全館窓のクリーニング、A棟3階ソファのクリーニング、A棟グループ学習室ブラインドの取替を実施しました。

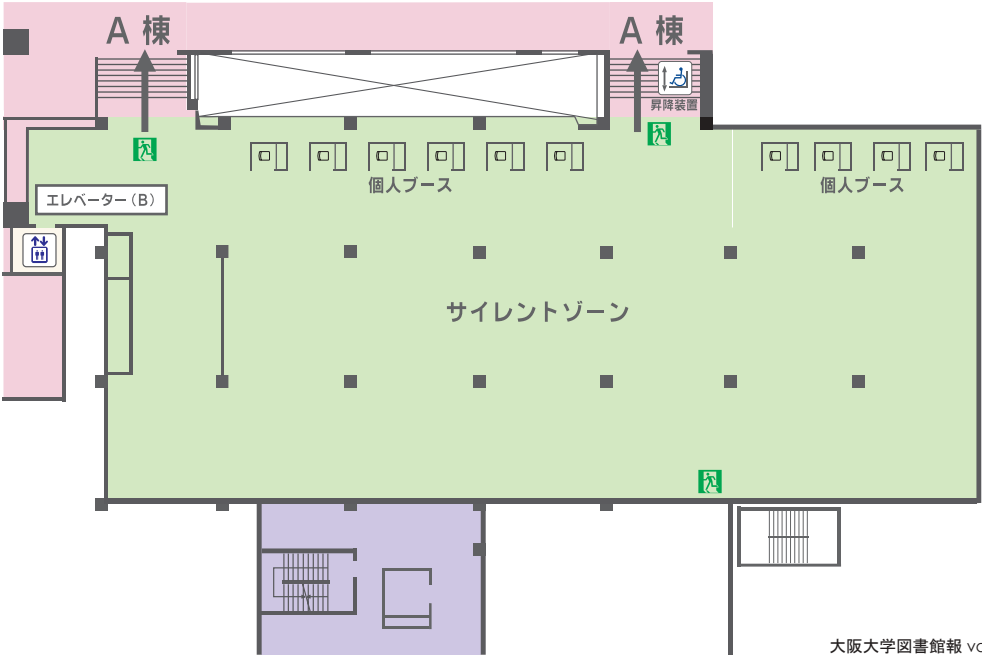
B棟2F



B棟3F



B棟4F



3. 理工学図書館はこう変わります！

理工学図書館では昨年8月から旧館の耐震改修工事が始まり、みなさまには大変ご不便をおかけしておりますが、本年**4月21日(火)**にリニューアルオープンいたします。リニューアルによって、入館して手前の建物は「西館」、渡り廊下の向こう側は「東館」という名称に変わりました。今回は、大きく変わった西館を中心に、1階から順にご紹介します。

西館1階－会話が可能なゾーンとくつろげる空間

西館1階は、これまで図書館にはなかった会話が可能なゾーンとなりました。くつろげる空間も新たに設けられています。マナーを守って快適にお過ごしください。

◎ラーニング・コモンズ

・新しい学習の場

ラーニング・コモンズは、会話が可能なスペースです。エントランスホールを抜けてすぐ、最も集いやすい場所に設置され、可動式テーブルも用意されています。共同作業やグループ学習にぜひご利用ください。なお、より大人数でのご利用や、周りに迷惑がかかるような場合などには、グループ学習室（西館2階）をお使いください。

・パソコンの充実

館内各所に分かれていたパソコンをラーニング・コモンズに集中し、更に増設も行いました。これにより、ラーニング・コモンズには、サイバーメディアセンター端末20台、マルチメディア端末9台、情報検索用端末1台、プリンタ2台が設置されています。情報収集や研究成果の作成などに、ご活用ください。

・便利なアイテム

ホワイトボードと、資料や荷物の移動に便利なカートを自由にお使いいただけます。

・携帯電話ブース

館内で携帯電話の通話は禁止されていますが、携帯電話の専用ブースで通話が可能になりました。

・ティーチング・アシスタント（TA）

わからないことや困ったことは遠慮なくTAにお尋ねください。図書館職員とともにTAが利用や学習をサポートいたします。

◎ラウンジ

・くつろげる空間

ラウンジは、学習する場とは別のくつろげる空間となっています。心地よいアーム付ラウンジチェアでリラックス。新聞や新着雑誌も置かれています。憩いのひとときをお過ごしください。

・大型ディスプレイ

ラウンジの入り口には、図書館からのお知らせを映す液晶ディスプレイを設置しました。また、ラウンジ内の壁際にはプラズマディスプレイがあり、阪大作成のコンテンツが流れます。お楽しみに。

◎ピロティ

・テーブルとチェアの設置

図書館玄関前のピロティにテーブルとチェアが置かれ、一息つけるスポットとなりました。

◎自動販売機

・蓋付き飲料の自動販売機を設置

リニューアル後も館内は全館飲食禁止となっており、許可されているのは蓋付き飲料だけです。館内の自動販売機で、蓋付き飲料を手軽にご購入いただけるようになりました。



ラーニング・コモンズ

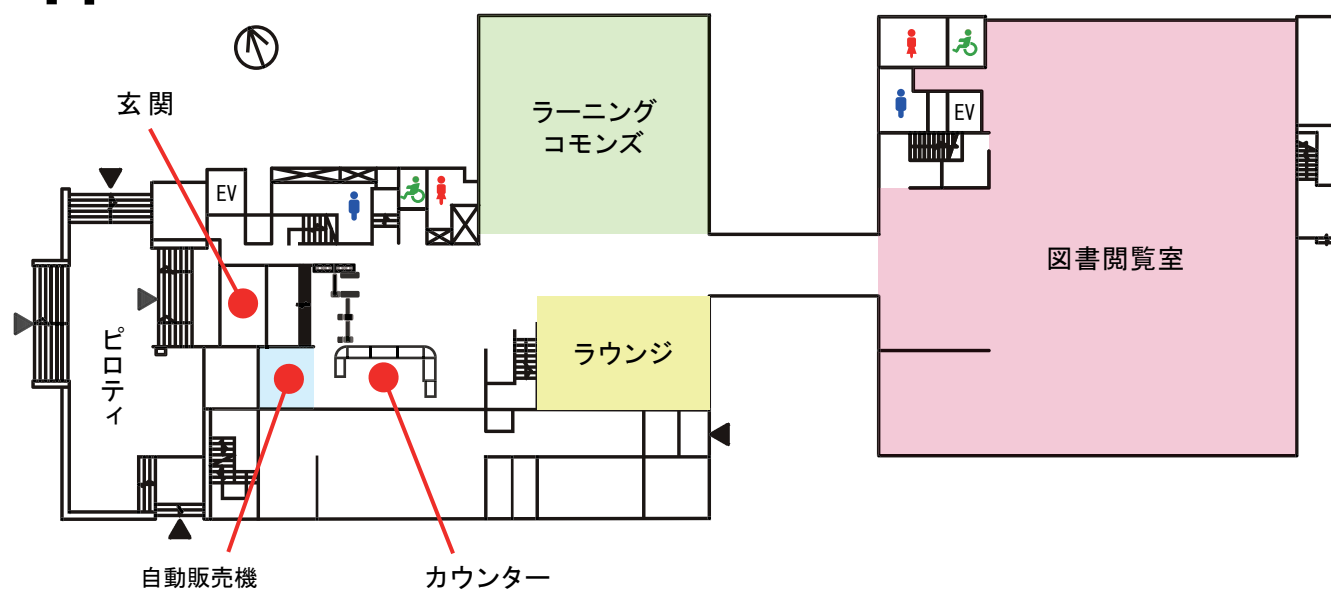


ラウンジ

1F

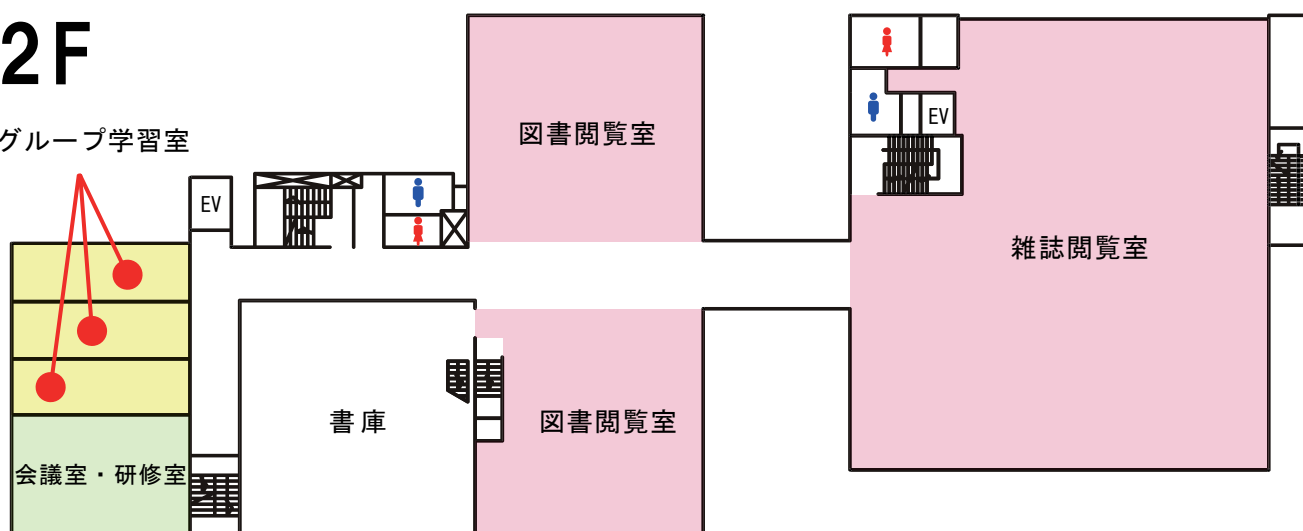
西 館

東 館

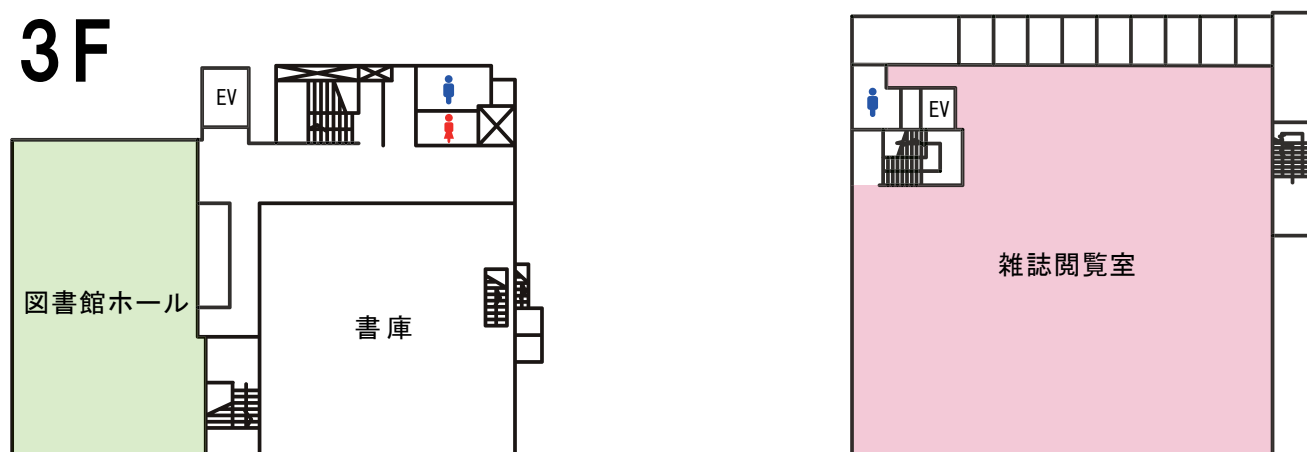


2F

グループ学習室



3F



理工学図書館はこう変わります！



西館2階 - 静粛なゾーン

西館1階以外は、すべて従来どおりの静粛なゾーンとなっています。西館1階との使い分けにご協力をお願いします。

◎グループ学習室

・3部屋に増加

グループ学習室はすべて西館2階に集中しました。部屋は一新され、1部屋増えて3部屋となりました。部屋ごとに異なる机や座席が置かれ、目的や用途にあった部屋の選択が可能です。

◎会議室・研修室

・研修室として利用可能に

会議室は研修室としても利用可能になります。グループ学習室よりも広く、重厚で落ち着いた部屋となっています。会議以外にも幅広くご利用ください。

西館3階

◎図書館ホール

・座席が100席に増加

名称が視聴覚ホールから図書館ホールに変わりました。部屋は拡張され、座席が20席増えて100席になりました。学会やセミナーにもお使いください。

・ディスプレイの増設

広くなったホールの後方からでも見やすいように、中央部の左右に大型ディスプレイを増設しました。

・マイクの変更

無線マイクを赤外線マイクに変更し、これまで時折発生していた混線の不具合を解消しました。

その他

◎パソコンの貸出

・ノート型パソコンを4台ご用意し、貸出サービスを始めます。

◎防犯カメラを設置

・図書館は様々な方が出入りするところです。みなさまの安全を守るために、防犯カメラを設置しました。



附属図書館クリスマスコンサート「シンフォニーの降る夜」を開催しました

クリスマスコンサート「シンフォニーの降る夜」が2008年12月19日（金）に豊中本館6階図書館ホールを会場として開催されました。

今回は大阪大学交響楽団から、アンサンブル数組に出演していただき、「ジングルベル」や「となりのトトロ」、アンダーソンの「プリंकブレンクブランク」などを演奏していただきました。

また、オーケストラの各楽器の特徴を、曲の一節を演奏しながら紹介するコーナーもあり、聴き手を飽きさせないプログラムでした。

コンサートには学外の方を含め149名を超える参加者があり、聴衆はオーケストラの奏でるクリスマスソングなどを楽しんでいました。





わたしのおすすめ本

リレー連載 その6



『教育実践学の構築：モデル論文の分析と理念型の提示を通して』

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科編著（東京書籍）2006

山本一晴

箕面分館、
人間科学研究科図書室
に所蔵。

学生にとって入学した時点から卒業までに常に背負いつづけなければならないのが研究論文であろう。課題が見出せなかったり、問題意識は持っているものの上手く整理できなかつたりといった声をよく耳にする。イチョウの葉が黄色に染まり、いよいよ肌寒くなってくると、図書の貸出も勢い増えてくる。学士および修士論文を作成した時のことを振り返ってみると、論文の提出期限に追われ切羽詰った状況では自らの論文を冷静に見つめる余裕などなかった。

今回紹介する「教育実践学の構築」は論文提出間際になって読むことはお勧めしない。論文の作成テクニックやマニュアルに類するものと異なるためである。本書は、博士課程に在籍する学生の研究論文を事例にして、論文の目次や論の組み立て方といった論文技法から研究と実践とをいかに結びつけるかといった研究の位置づけまで幅広く論じ、解説している。

本書第1章では、諸外国の事例を通して実践学構築に向けて理論的検討を行っている。第2章では、言語系教育から自然系教育まで幅広く分野を設定し、モデル論文を分析している。また、これまでの研究スタイルの動向についても説明している。第3章では、論文作成に向けて、実践学として備えておくべき条件や作成プロセスのモデルを提案している。

本書は教育学と実践とのつながりをテーマに構成されているが、実践と常に関わっていこうとする姿勢があれば、分野を問わず役に立つであろう。私の専門は翻訳学であるが、結局のところ実践という「現場」に視線を向けている点で共通しているおり、自身の研究意義を考える上で大いに参考になった。

私が本書に出会ったのは、残念ながら論文提出期限の3ヶ月前であった。時すでに遅く、目次等も完成していたので論文の軌道修正は難しかった。博士前期後期課程の学生はもちろんのこと学部生にとっても、研究論文の構想を練る上で参考になると考え、一読を勧めたい。限られた時間の中でどの方向に向かって努力していくか、本書が手がかりとなってくれるはずである。

（やまもと・かずはる 言語文化研究科博士前期課程2年、附属図書館）

・・・教員著作寄贈図書のご紹介 2008.Nov. ～ 2009. Feb.・・・

寄贈者氏名（所属） ※敬称略	書名	所蔵館(*)
合阪學（名誉教授、文）	「地中海世界史：ヘレニズム期からローマ元首政期へ」	豊, 吹
大高順雄（名誉教授）	「ベレンガウドゥスの黙示録注解：[Cambridge, Trinity College R. 16. 2]」	豊
吉野勝美（名誉教授）	「出雲神話と先端技術：番外研究余談」	豊, 吹
秋田茂（文）、桃木至朗（文）	「歴史学のフロンティア：地域から問い直す国民国家史観」	豊, 箕
Paul A. S. Harvey（文）	「Messages to my mother 1-6」他5冊	豊
江利川春雄（外）	「日本人は英語をどう学んできたか：英語教育の社会文化史」	箕
松木園久子（外）	「英語小説にみる「村」のなかのインド」	箕
盛岡通（工）	「リスク管理教育が導く持続可能社会」他1冊	吹
尾上新太郎（言語文化）	「戦時下の小林秀雄に関する研究」	箕
杉田米行（言語文化）	「日米の医療：制度と倫理」他3冊	豊, 箕
林田理恵（言語文化）	「授業づくりハンドブック：ロシア語」	箕
薮司郎（言語文化）	「The Hpun language endangered in Myanmar = 消滅の危機に瀕したビルマのボン語」	豊
吉永尚（言語文化）	「心理動詞と動作動詞のインターフェイス」	箕
服部憲児（教育実践）	「フランスにおける全国大学評価委員会(CNE)による大学評価に関する研究」	豊
津田守（GLOCOL）	「法務通訳翻訳という仕事」	豊, 箕
張淑儀（世界言語セ）	「生活文化から創作会話へ：自由港～自由講(広東言語語研修教材；2007年度)」他2冊	吹

所蔵館(*) 豊：豊中本館、吹：吹田分館、箕：箕面分館

詳細は教員著作コーナーのウェブページ (<http://www.library.osaka-u.ac.jp/kyoin/kyoin-kizo.htm>) へ

LibQUAL+® による附属図書館アンケート調査の実施結果について

1. はじめに

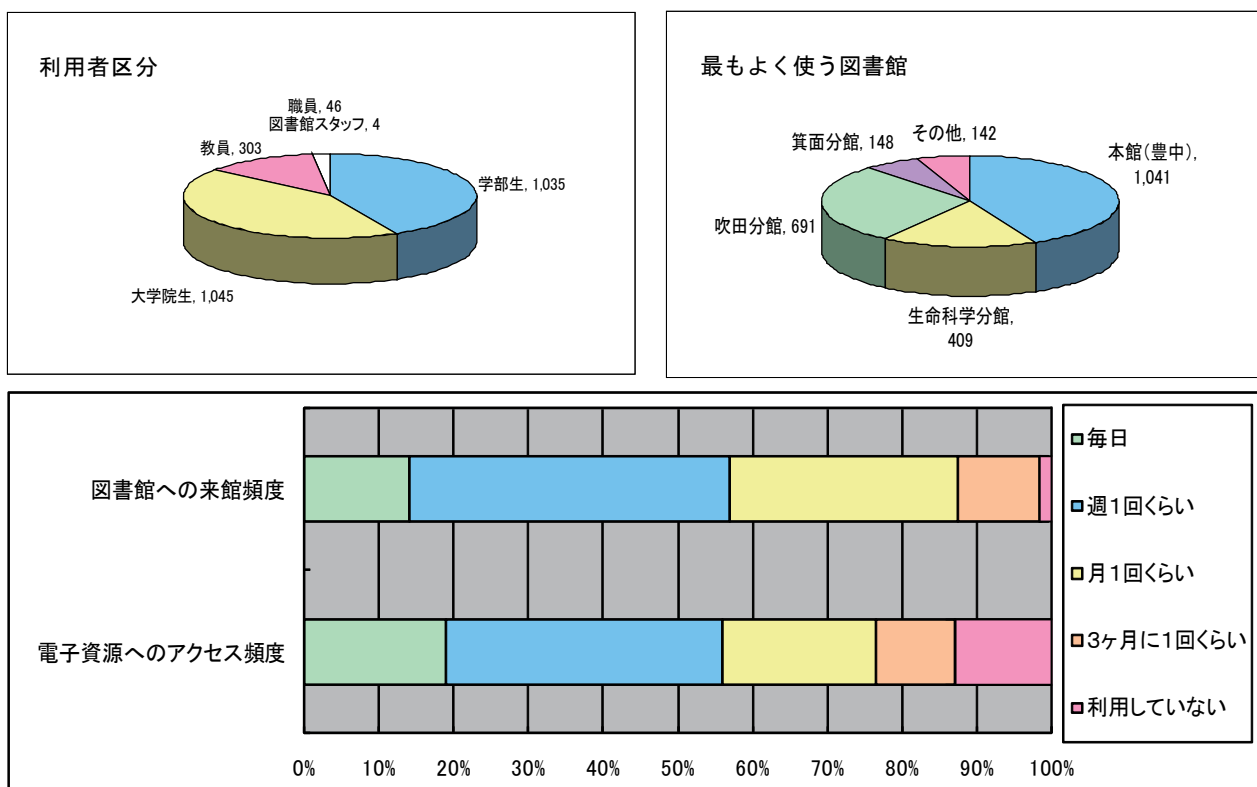
附属図書館では、平成20年11月4日（火）から11月30日（日）までの約1か月間、利用者サービス向上のための図書館サービス評価と附属図書館の経営改善および事業計画策定のための基礎データ収集を目的とし、Web による図書館用のサービス品質に関する利用者アンケート調査 LibQUAL+®（ライブカル）を実施しました。その結果概要を報告します。みなさまのご協力、本当にありがとうございました。

2. LibQUAL+® について

LibQUAL+® は、米国研究図書館協会（ARL）が図書館用のサービス品質を測定するために、顧客サービス品質測定の SERVQUAL を基に開発した調査ツールです。22 項目にわたる調査項目に対し 3 種類（最低限、期待、実際）のサービスレベルを利用者が点数化した結果に基づき、①サービスの姿勢（Affect of Service, AS）、②情報のコントロール（Information Control, IC）、③場所としての図書館（Library as Place, LP）という 3 つの側面から図書館サービスの品質を評価するものです。これまでに米国だけでなくヨーロッパ、アジア、オセアニアの大学図書館等 1,000 以上の機関で調査が実施され、国際的な広がりを見せています。今回の附属図書館アンケート調査は、調査項目にオプションの 5 項目を追加して実施しました。

3. 回答者の内訳

回答数は、2,433 件（学部生 1,035、大学院生 1,045、教員 303、図書館スタッフ 4、職員 46）で、有効回答数は、2,343 件でした。回答率 10%以上を目標としていましたが、調査対象者（学部、大学院生、教員の在籍数）の 8.8% からの回答にとどまりました。中でも学部生には、一部のみしか調査依頼の電子メール送信を行えなかったことが、低い回答率となったと考えています。回答中「図書館へ足を運ぶ頻度を教えてください」の設問で、「利用していない」とする回答数は、29（1.24%）、「図書館のウェブページから電子資源にアクセスする頻度を教えてください」の設問で「利用していない」とする回答数は、300（12.83%）であり、回答者のほとんどが図書館の利用経験者でした。



地域に生き 世界に伸びる Live Locally, Grow Globally

OSAKA UNIVERSITY



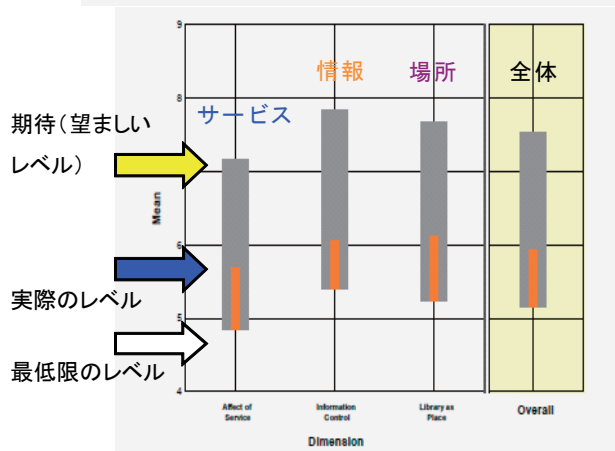
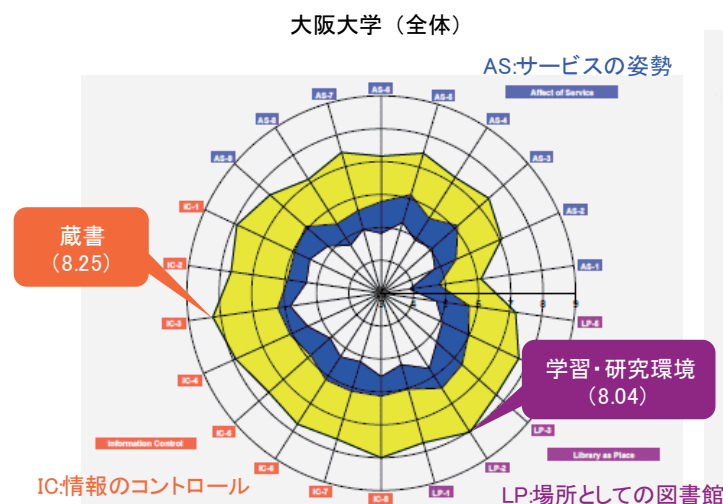
図書館をもっと使いやすくするために...

4. 集計結果の概要

(1) 全体

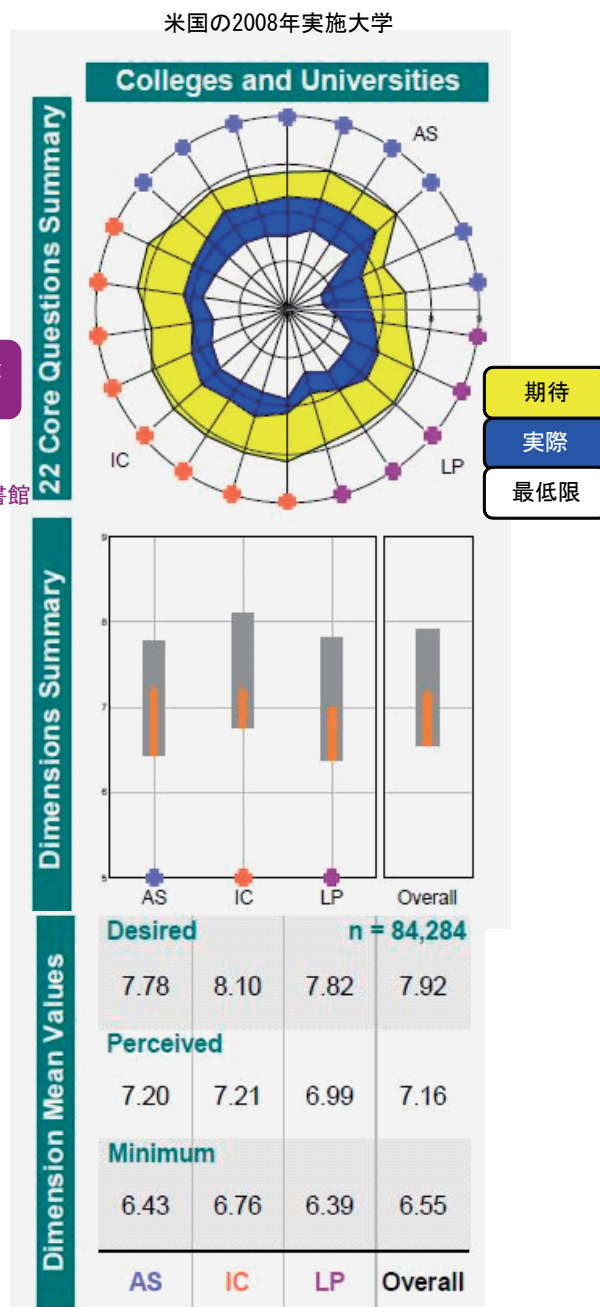
今回の調査の特徴である最低限、期待、実際という評価指標を比較すると、図書館サービスに対する現状評価は、全体的には最低限のレベルを上回り、9段階評価中6に近い値となっており、一定のサービスレベルは満たしているといえます。ただし、期待レベルは7.5を超えており、一方で図書館サービスがまだまだ十分でないことを示す結果となりました。特に蔵書(8.25)、学習・研究環境(8.04)の更なる充実を望む声強いことがうかがえました。

また、米国の2008年実施大学と比較して、すべてのサービスレベル(最低限、期待、実際)が低い値となっています。この調査におけるサービスの評価は、実際のサービスレベルが高いほど最低限および期待レベルも高くなる傾向を示すことから、この結果を真摯に受け止め、今後の図書館サービス向上につなげたいと思います。



期待	n=2,339		
7.16	7.84	7.68	7.53
実際			
5.69	6.06	6.11	5.93
最低限			
4.85	5.40	5.23	5.15

サービス 情報 場所 全体

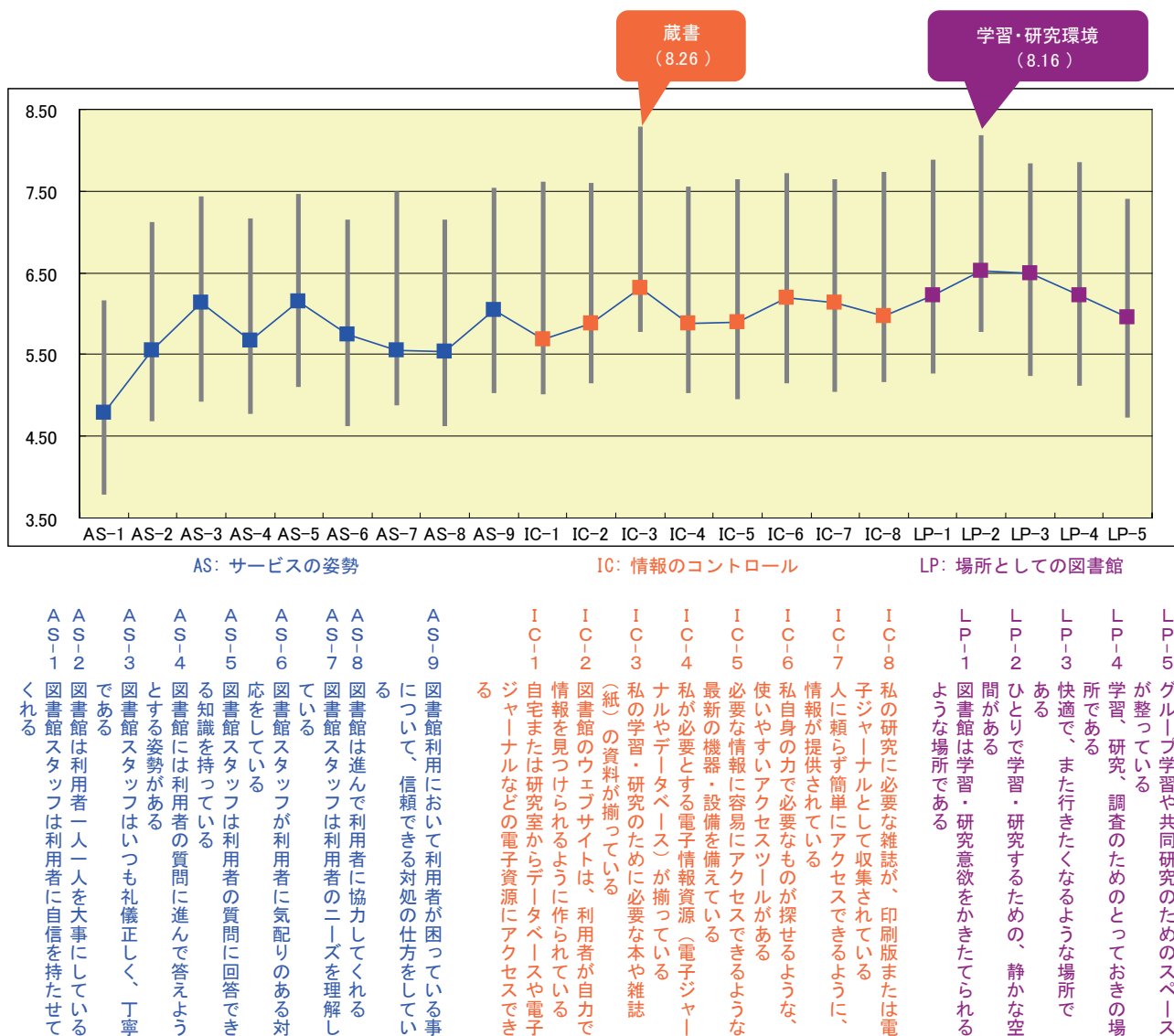


出典: 2008 LibQUAL+® Session II Highlights

http://www.libqual.org/documents/admin/LibQUALHighlights2008_SessionII.pdf

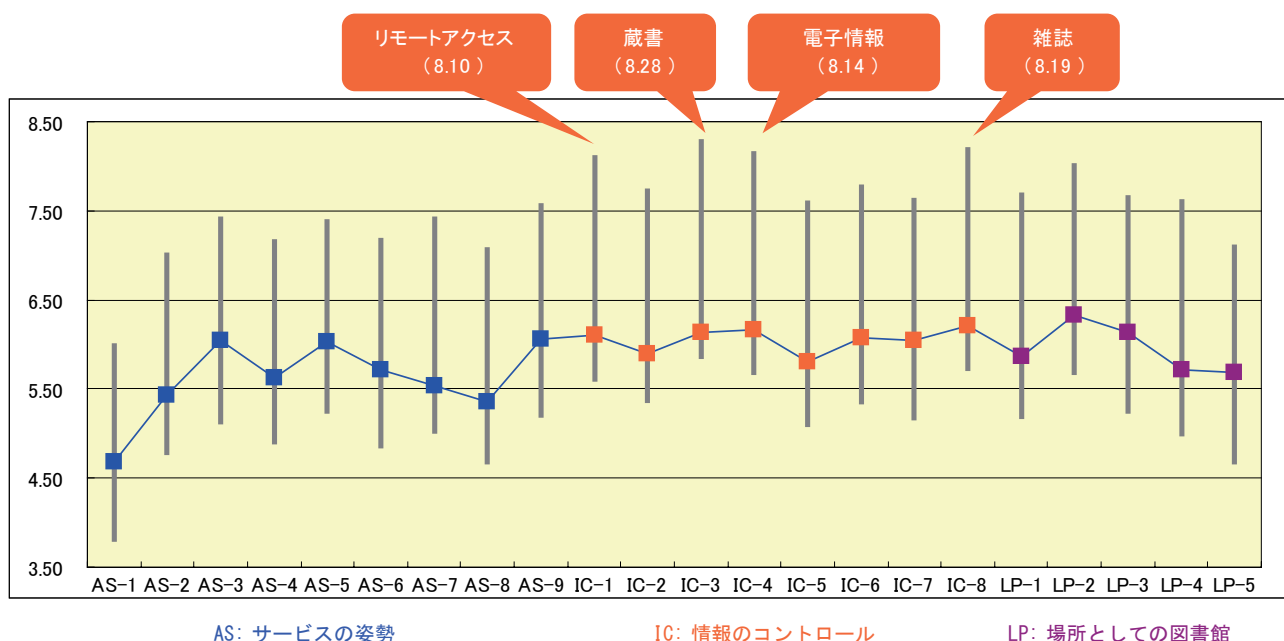
(2) 学部生

特に蔵書（8.26）、学習・研究環境（8.16）の期待度が高い結果でした。場所としての図書館は評価をいただいていることがうかがえましたが、更なる資料（紙媒体）の充実が要望されています。



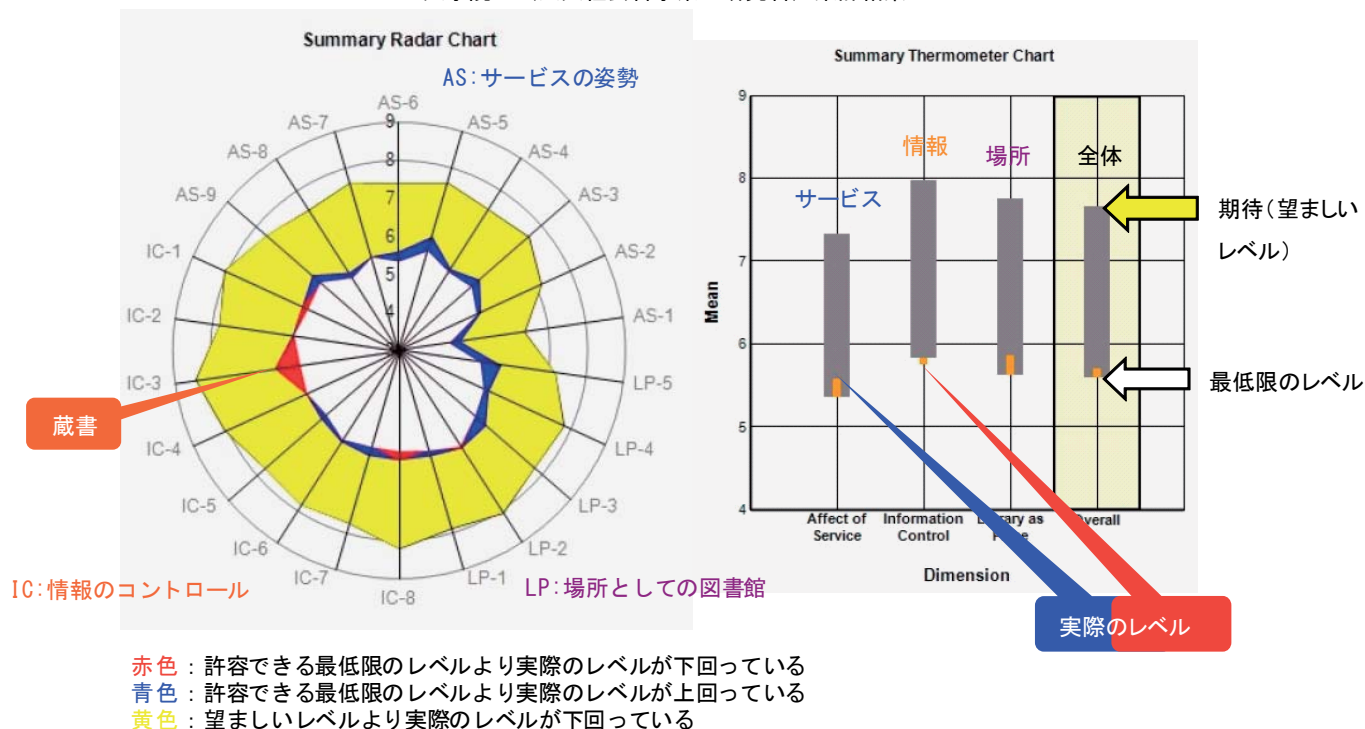
(3) 大学院生

特に蔵書（8.28）、雑誌（8.19）、電子情報（8.14）、電子情報へのリモートアクセス（8.10）の期待度が高い結果でした。また、資料のみならず場所としての図書館への要望も強いことがうかがえました。



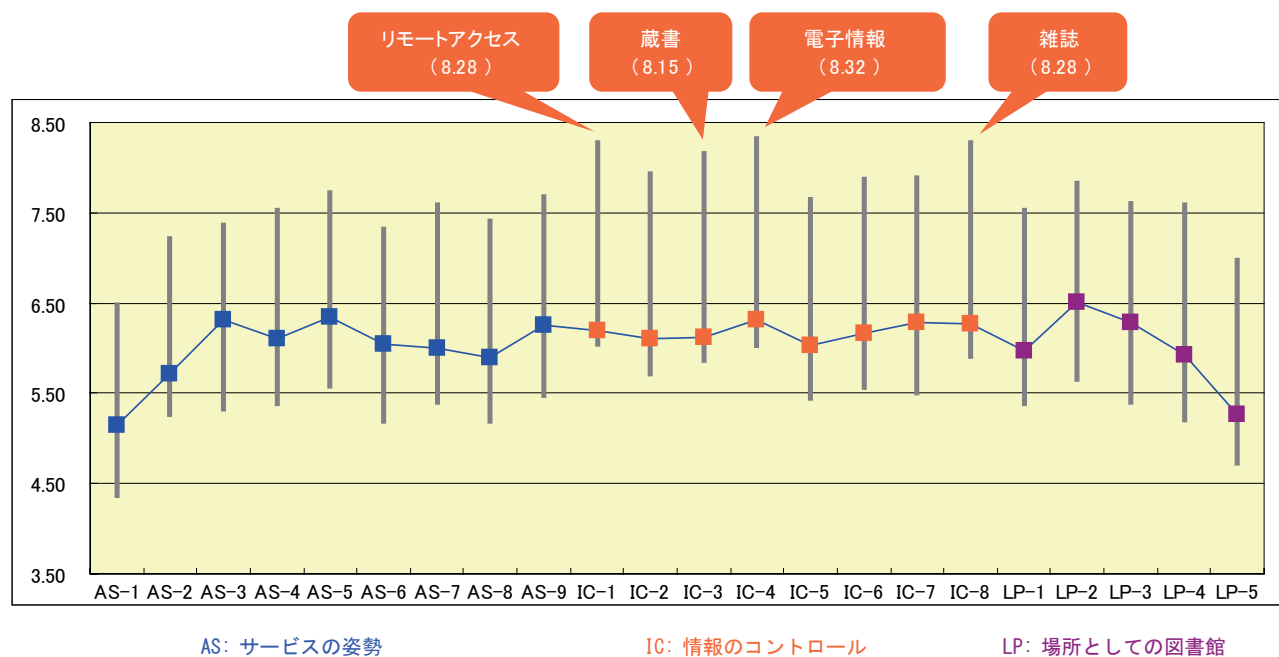
なお、研究科別の集計では、全体の傾向とは大きく異なり、文学研究科、法学研究科、経済学研究科、国際公共政策研究科、人間科学研究科等の人文社会科学系の評価は、実際のレベルが最低限のレベルを下回るものもある厳しいものでした。

大学院生（人文社会科学系の研究科）集計結果



(4) 教員

特に電子情報 (8.32)、電子情報へのリモートアクセス (8.28)、雑誌 (8.28)、蔵書 (8.15) が高い期待度を示していました。このことから、データベースや電子ジャーナルなどの電子資源のみならず紙媒体についても、更なる整備が望まれるとの結果でした。



なお、研究科別の集計では、大学院生と同様に人文社会科学系の評価が低いとともに、理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科等の理工系についても電子情報資源に関する項目等について、実際のレベルが最低限のレベルを下回るものもある厳しいものでした。

5. コメントの記入状況

自由解答欄であるコメントの数は、1,381 件で回答者の 56.8% に記入していただきました。「回答しにくいアンケートであった」などアンケートそのものに関する意見もありましたが、これまでのアンケートに比べ記入率も高く、多くの貴重な意見が寄せられました。コメントに対する改善については、漸次対応していきたいと考えています。

コメントの主な内容

- (1) 設備に関する要望：空調や換気に関するもので、省エネ温度設定に対する不満というより、建物構造と空調設備に起因すると考えられるものが多くありました。
- (2) 蔵書に関する要望：自身の専門分野の蔵書が少ないというものやリクエスト制度の改善など、選書に関するものが主なものでした。
- (3) 貸出・相互貸借に関する要望：「Web サービス」に関するものが主なものであり、「図書館 9 館室どこでも返却サービス」とともに、既に提供している図書館サービスが知られていないという実態が明らかとなりました。
- (4) 開館時間の延長に関する要望：土曜・日曜の時間延長（10:00-17:00）の要望が強く、試験期の時間延長や祝日の開館、24 時間開館を希望する声も寄せられました。
- (5) 電子ジャーナルに関する要望：更なる充実と学外からのアクセス改善が主なものでした。
- (6) OPAC（オンライン蔵書目録）に関する要望：検索結果について、詳細な図書の所在場所の明示など、使いやすさの改善を望むものが主なものでした。
- (7) 職員に対する要望：肯定的なもの、否定的なもの様々なものが寄せられましたが、主に職員の資質向上を望むものでした。
- (8) 利用者マナーへの不満：飲食や睡眠などについて、利用マナー向上への対策を望むものが主なもので、館内巡回を求める声も寄せられました。

6. 景品贈呈

今回のアンケートでは、回答率向上のため抽選による景品をつけました。12 月 19 日（金）に、景品の贈呈式と附属図書館長と当選者との懇談も実施しました。参加者は 3 名と少なめでしたが、アンケート実施上の問題点など貴重なご意見をいただきました。



附属図書館長と景品当選者



懇談の様子

7. さいごに

今回のアンケート結果はもちろんのこと、これまでのアンケート結果や他大学の結果を比較検討しつつ、みなさんの期待を得るような図書館サービスの改善に努めていきたいと考えております。



阪大で機関リポジトリワークショップ DRF-Senri を開催しました

大阪大学附属図書館では、デジタルリポジトリ連合（DRF）主催、大学図書館近畿イニシアティブ共催で、2009 年 1 月 19 日・20 日に DRF 地域ワークショップ（近畿地区）DRF-Senri を開催し、近畿や関東、九州から 70 名を越す参加者がありました。

学術雑誌論文、紀要論文、博士論文等の、学内の知的生産物を電子化して保存・公開する機関リポジトリの導入前に留意しなければならない点や、サービスをはじめた後に実務担当者が抱く様々な疑問・問題点について活発な意見が交わされました。

参加者からは「始めたばかりの大学の例がとても参考になった」「導入とこれからについてよく理解できた」という声が寄せられ、本ワークショップは貴重な情報交換の場であると同時に、担当者・関係者間の今後のコミュニティ形成を期待できる催しになりました。

このワークショップの詳細は、デジタルリポジトリ連合（DRF）の Web サイトでご覧いただけます。

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRF-Senri>



「図書館は何をしているか？」に応えよう

: アメリカ図書館訪問報告

土出 郁子

2008年11月16日から23日まで、国立情報学研究所によるCSI委託事業(機関リポジトリコミュニティの活性化)の予算をいただき、アメリカを訪問しました。機関リポジトリについての知見を広めるための国際会議への参加と個別大学訪問・見学が本目的ですが、個別の大学訪問時には、学生サービスについてのインタビューや施設見学もさせていただきました。

今回は、その学生向けサービスや「ラーニング・commons」に関連した部分を報告したいと思います。比較的新しい大学と、伝統のある大学の2箇所を訪問しました。

1. George Mason University Johnson Center Library

ジョージ・メイソン大学は Washington D.C. 郊外の Fairfax にメインキャンパスを持つ大学です。D.C. 中心部から車で30分程度とのことですが、地下鉄とスクールバスを乗り継いで1時間少々かかりました。キャンパスは広く、色調が白とレンガ色で統一されています。大学のロゴは緑で、周囲の風景とよく調和していました。

Fairfax のキャンパスには Fenwick Library と Johnson Center Library の2つ図書館があります。Fenwick は伝統的で冊子体所蔵等を重視した静かな図書館、Johnson Center Library は学部生向けに気軽に使える図書館、という位置づけになっており、今回は Johnson Center の方を訪問しました。

Johnson Center は学生専用の建物で、大学事務、図書館、ラーニングセンター(Collaborative Center) 等に加え、各種ショップ、フードコーナー、映画館、銀行等、学生生活に関係するものがほぼひとつに集約されています。入口を入るとすぐコンピュータショップと本屋があり、建物中央は吹抜けでフードコートとインフォメーションセンターになっています。私達の訪問時には学生で大変にぎわっていました。図書館の入口は2階で、サインがネオンになっているなど、わかりやすくカジュアルな雰囲気になっています。図書館自体は2階から4階までの3フロアです。館内は個別の学習机、グループ学習用机、DVD等視聴覚専用ブース、と大まかに分けられており、日の当たる一角は大きな窓、ソファ、大きめの机、新聞が配置されてリラックススペースになっていました。

特徴的なのは、図書館エリアの外にあたるスペースに図書館の本や勉強用机が並んでいることです。学生は開館時間を気にすることなく、自由なスタイルで学習ができます。エリア外に並ぶ本の貸出は24時間OKで、閉館時間中はインフォメーションセンターで貸出手続きができます。

レファレンス(調査相談)のコーナーには、よく「論文の書き方」自体の相談も寄せられるため、論文の書き方指導をおこなうライティングセンターの職員が週1回図書館に来ているそうです。

学生の学習については、情報技術等のサポート面等で Collaborative Center の方とも協力を行っているとのこと。

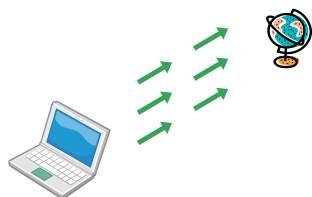
静かな雰囲気を好む場合は Fenwick、友達とにぎやかにやりたい場合などには John Center と、学生たちは2つの図書館をうまく使い分けているようです。2つの図書館の距離は徒歩5,6分程度です。



Johnson Center 正面



建物中央のフードコートエリア



図書館正面入口とカウンター

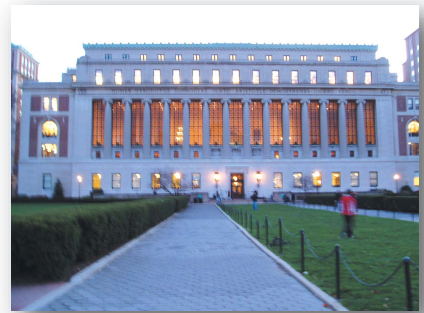
2. Columbia University Butler Library

コロンビア大学には約 28 の図書館・室があり、Butlar Library はキャンパスの南側中央にある大きな図書館です。もともと本館でしたが、現在は社会学系の資料が Lehman Social Science Library に移され、人文学系やエリア・スタディーズ中心の図書館となっているそうです。

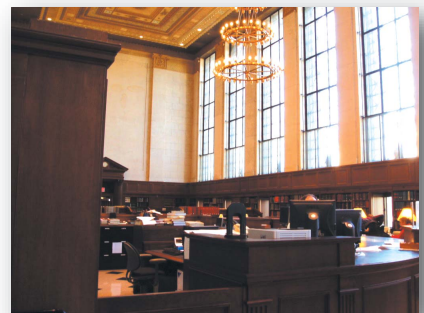
図書館建物の中心が書庫層(15層)、外側に閲覧室等(9階)があり、その間に通路がある構造で、ドーナツのようになっています。利用者スペースは6階までです。入口は2階にあり、貸出カウンターは3階です。貸出は平日夜11時まで行っています。レファレンスの部屋は貸出カウンターの向かい側にある大きな部屋です。とても静かで、続きに「目録の部屋」があり、冊子目録やカード目録が一部屋に並んでいます。雑誌の部屋の横には多くのマイクロフィルムリーダーがあります。保存のためのメディア変換については、デジタル媒体の寿命について検証が不十分であるため、まずマイクロフィルム化を行っているとのこと。

コロンビア大学では Core Curriculum という一般教養のような独自のカリキュラムがあり、学生がコロンビア大学に入学するひとつの理由となっているようです。この Core Curriculum のひとつに論文作成や資料収集についての基礎的な方法を教える授業があります。基本的に教員が担当していますが、何らかの理由で正規のコマを受講できなかった学生には、補講で図書館職員が担当することもあるそうです。またコンピュータソフトの使いこなし方など 1,000 コース以上の e-ラーニングのメニューがあり、学生は個人 ID とパスワードでログインし、いつでも自由に学習ができるようになっています。

図書館のホームページは、各電子リソースへのアクセスや他大学・機関からの資料借受 (ILL)、オフサイトキャンパスからの資料取り寄せ等がスムーズに行われるように作られています。シラバスのデータと授業で必要な資料一覧(コースリザーブ)のデータが授業単位でまとめられていたり、研究・学習分野ごとにガイドが作成されていたりしてとても使いやすそうです。図書館案内も、PDF(Self Guide Tour) とビデオ版がホームページに掲載されていました。新学期には図書館員がツアーを実施しているようです。



Butlar Library 正面



Reference Room



Card Catalog Room

どちらの図書館も、学生へのサービスを考えて様々な仕掛けをもっていました。図書館の利用者が図書館でしたいこと、図書館に求めることは何か、を考え、「図書館では何をやっているのか」という問いに応え、学生の学習や研究をサポートしていることをわかりやすくアピールしているように感じました。

最後になりましたが、図書館サービスについて改めて考える貴重な機会を与えていただいた大阪大学附属図書館の皆さま、本出張にあたってお世話になった全ての方に、改めてお礼申し上げます。

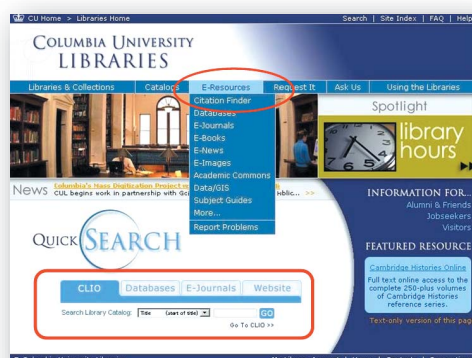
George Mason University Johnson Center:

<http://www.gmu.edu/operations/facilities.html>

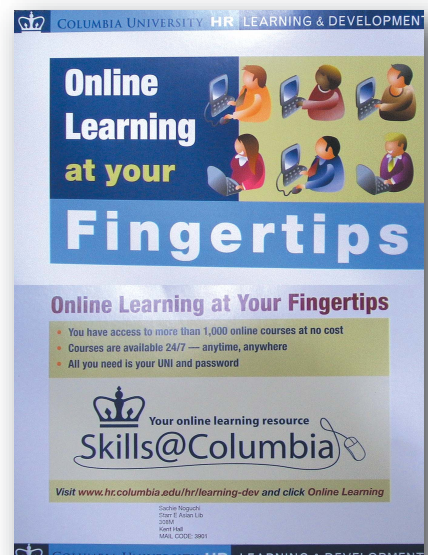
GMU Libraries: <http://library.gmu.edu/>

Columbia University Libraries: <http://www.columbia.edu/cu/lweb/>

(ついで・いくこ 附属図書館 学術情報整備室学術情報組織化班)



電子リソースへのアクセスページ



e-ラーニング宣伝のためのカード